

VI 平成28年鉱工業の概況

1 一般概況

平成28年の本県鉱工業生産指数（原指数）は年平均91.4、前年比1.1%、出荷指数（原指数）は年平均96.2、前年比2.0%、在庫指数（原指数）は年末値110.4、前年末比△1.0%となりました。

表1 年次別鉱工業指数の推移(原指数 平成22年=100)

区分/年次		H23	H24	H25	H26	H27	H28		
長野県	生産	指数	93.9	91.2	90.6	93.9	90.4	91.4	
		前年比(%)	△6.1	△2.9	△0.7	3.6	△3.7	1.1	
	出荷	指数	98.4	98.1	96.8	101.1	94.3	96.2	
		前年比(%)	△1.6	△0.3	△1.3	4.4	△6.7	2.0	
	在庫(末)	指数	108.4	114.7	108.5	125.7	111.5	110.4	
		前年比(%)	5.3	5.8	△5.4	15.9	△11.3	△1.0	
	在庫(平均)	指数	108.6	123.4	107.4	116.1	117.8	111.6	
		前年比(%)	8.6	13.6	△13.0	8.1	1.5	△5.3	
	全国	生産	指数	97.2	97.8	97.0	99.0	97.8	97.7
			前年比(%)	△2.8	0.6	△0.8	2.1	△1.2	△0.1
		出荷	指数	96.3	97.5	96.9	98.2	96.9	96.3
			前年比(%)	△3.7	1.2	△0.6	1.3	△1.3	△0.6
在庫(末)		指数	105.0	110.5	105.7	112.3	112.3	106.4	
		前年比(%)	2.0	5.2	△4.3	6.2	0.0	△5.3	
在庫(平均)		指数	104.3	110.4	107.4	109.5	113.0	110.9	
		前年比(%)	4.3	5.8	△2.7	2.0	3.2	△1.9	

本県鉱工業活動を四半期別（季節調整済指数）で見ると、平成24年10～12月期（第Ⅳ四半期）から平成26年4～6月期（第Ⅱ四半期）にかけて上昇した後に低下傾向に転じ、平成27年10～12月期（第Ⅳ四半期）に88.6という低い水準となりましたが、その後は平成28年10～12月期（第Ⅳ四半期）まで4期連続で上昇しています。出荷は、平成24年10～12月期（第Ⅳ四半期）から平成26年1～3月期（第Ⅰ四半期）にかけて上昇した後に低下傾向に転じ、平成27年10～12月期（第Ⅳ四半期）に91.9まで低下しましたが、その後は上昇傾向が続いています。在庫は、平成25年1月～3月期（第Ⅰ四半期）に向けて低下して以降、上昇傾向となり、平成26年10月～12月（第Ⅳ四半期）には、125.1という高い水準となりました。以降は低下・上昇を繰り返しています。

長野県・全国鉱工業指数の推移(平成22年=100)

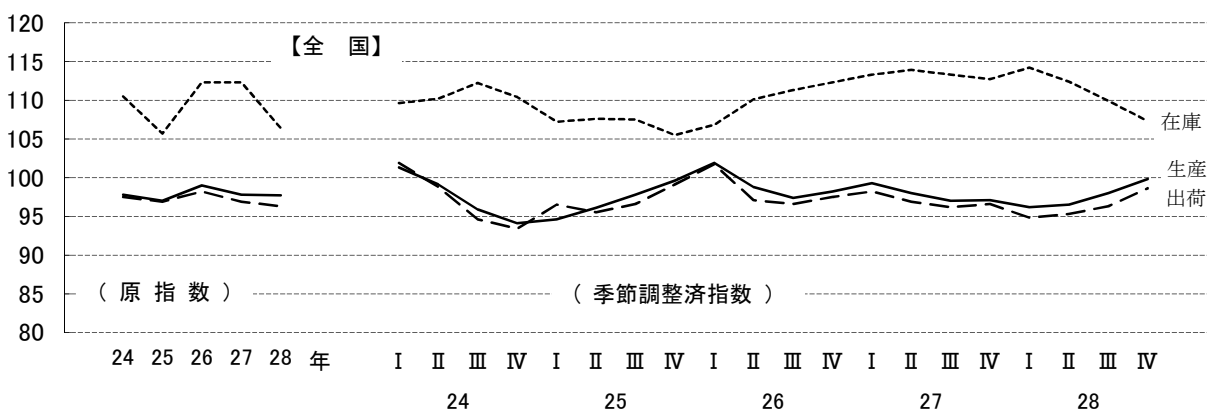
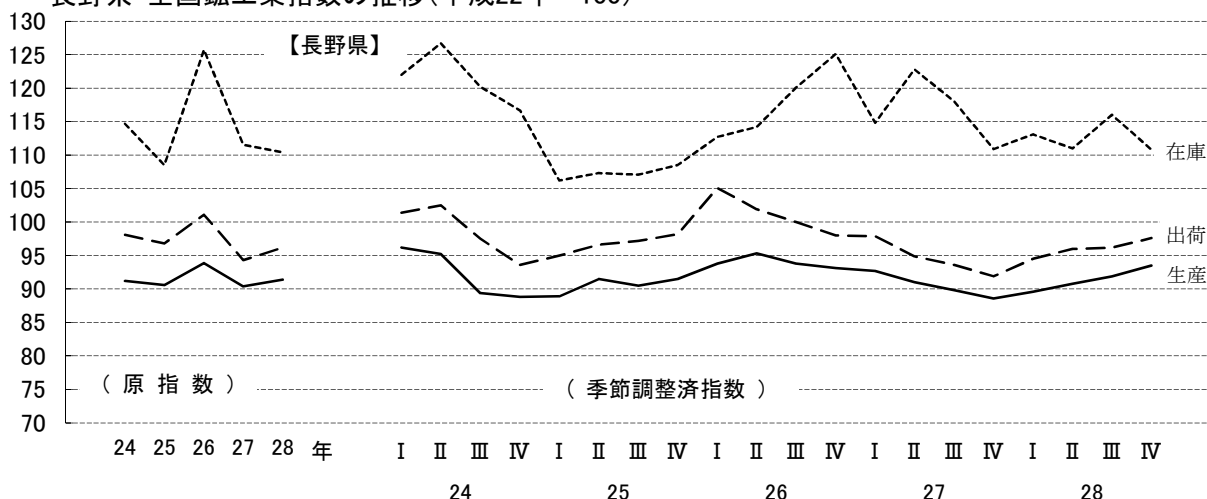


表2 平成28年・四半期別鉱工業指数の推移（平成22年＝100）

区分/年次(期)		平成27年				平成28年				
		第Ⅰ	第Ⅱ	第Ⅲ	第Ⅳ	第Ⅰ	第Ⅱ	第Ⅲ	第Ⅳ	
長野県	生産	季節調整済指数	92.7	91.0	89.8	88.6	89.6	90.8	91.9	93.5
		前期比(%)	△ 0.4	△ 1.8	△ 1.3	△ 1.3	1.1	1.3	1.2	1.7
	出荷	季節調整済指数	97.9	94.9	93.6	91.9	94.5	96.0	96.2	97.6
		前期比(%)	△ 0.1	△ 3.1	△ 1.4	△ 1.8	2.8	1.6	0.2	1.5
	在庫	季節調整済指数	114.8	122.8	118.0	110.9	113.1	111.0	116.0	110.8
		前期比(%)	△ 8.2	7.0	△ 3.9	△ 6.0	2.0	△ 1.9	4.5	△ 4.5
全国	生産	季節調整済指数	99.3	98.0	97.0	97.1	96.2	96.5	98.0	99.8
		前期比(%)	1.1	△ 1.3	△ 1.0	0.1	△ 0.9	0.3	1.6	1.8
	出荷	季節調整済指数	98.2	96.9	96.2	96.6	94.8	95.3	96.3	98.6
		前期比(%)	0.7	△ 1.3	△ 0.7	0.4	△ 1.9	0.5	1.0	2.4
	在庫	季節調整済指数	113.3	113.9	113.3	112.7	114.2	112.4	109.9	107.3
		前期比(%)	0.9	0.5	△ 0.5	△ 0.5	1.3	△ 1.6	△ 2.2	△ 2.4

(注)在庫指数は、期末値です。

2 業種別の動き(原指数)

平成28年の本県鉱工業活動を業種別にみると、前年比(原指数)で生産は、電気機械工業、食料品工業、はん用・生産用・業務用機械工業など11業種が上昇し1.1%となりました。出荷は、電気機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、食料品工業など12業種が上昇し2.0%となりました。在庫は、食料品工業、紙・紙加工品工業、電気機械工業など7業種が低下し△1.0%となりました。

上昇、低下の主な業種及び品目は、以下のとおりです。

生産指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	11	電気機械工業	4.5	電気計測器
		食料品工業	2.8	飲料
		はん用・生産用・業務用機械工業	1.8	
低下	6	化学工業	△ 16.0	医薬品
		情報通信機械工業	△ 4.6	電子計算機及び関連装置
		電子部品・デバイス工業	△ 1.1	半導体素子

出荷指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	12	電気機械工業	5.7	電気計測器
		はん用・生産用・業務用機械工業	3.2	
		食料品工業	2.7	飲料
低下	5	電子部品・デバイス工業	△ 4.2	半導体素子
		化学工業	△ 5.7	医薬品
		輸送機械工業	△ 1.8	自動車部品

在庫指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	9	情報通信機械工業	37.5	
		電子部品・デバイス工業	4.9	
		その他工業	7.7	家具工業
低下	7	食料品工業	△ 7.9	その他の食料品工業
		紙・紙加工品工業	△ 51.4	
		電気機械工業	△ 12.4	

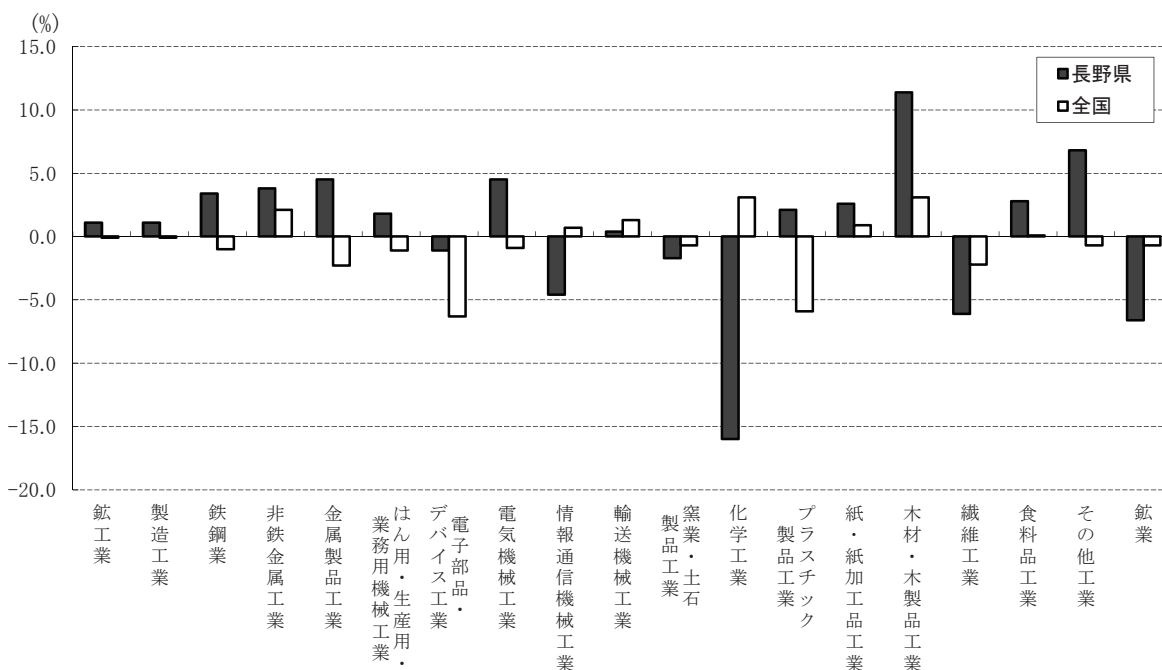
※「主な業種・品目」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

※「主な品目」については、対象事業所数が少数の場合は掲載していません。

※前年比で横ばいの業種は業種数に含みません。

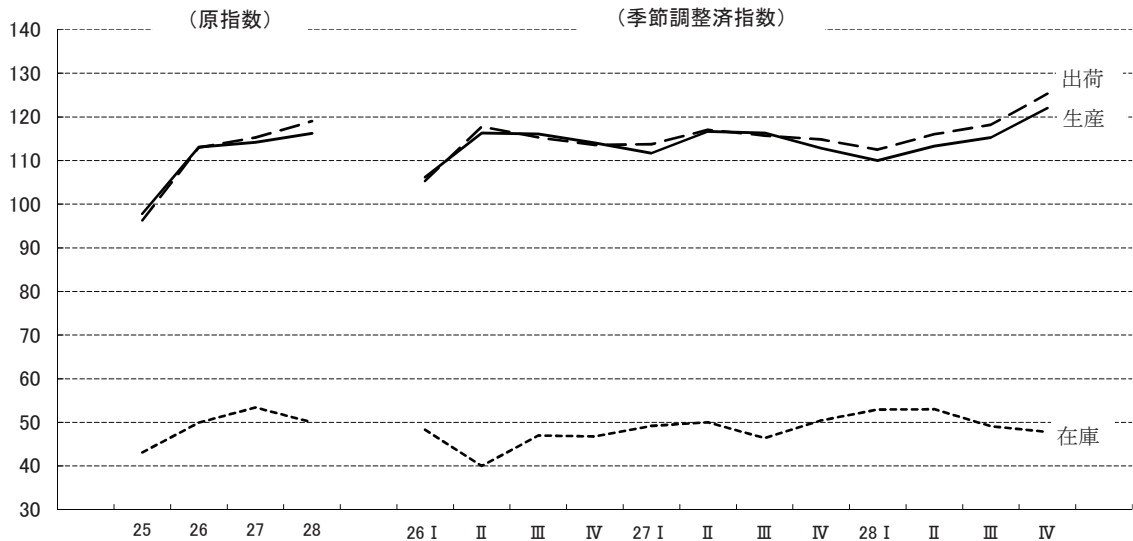
※在庫は、前年末比を用いています。また、「輸送機械工業」は在庫系列を採用していないため業種数に含みません。

長野県・全国の業種別生産指数(原指数)の前年比



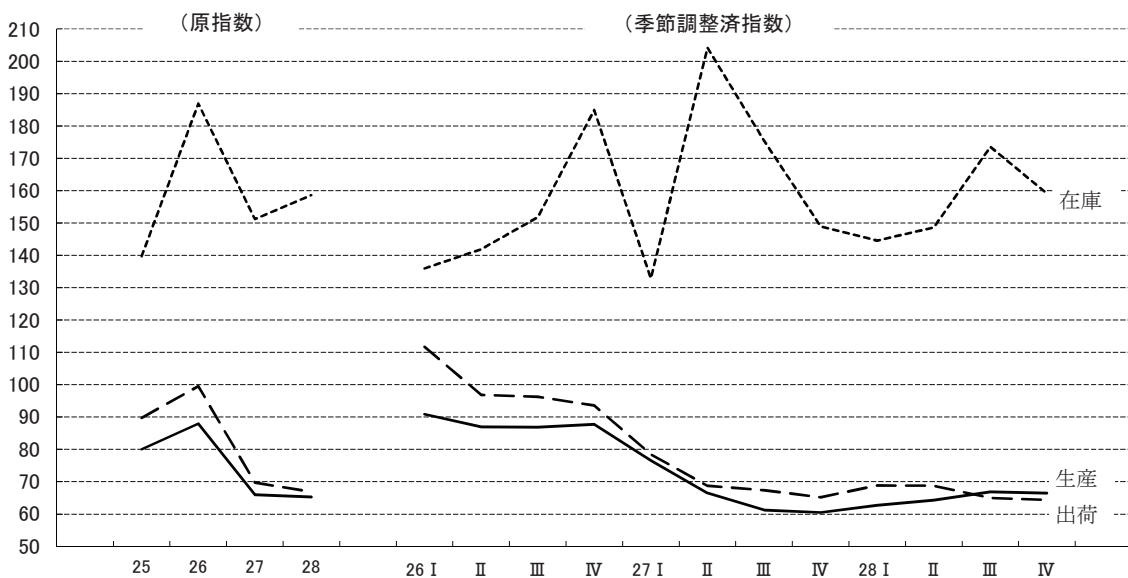
**はん用・生産用・
業務用機械工業**

平成28年の生産指数は116.2、前年比1.8%となりました。これは、主にはん用機械工業が上昇したことによるものです。出荷指数は111.9、同3.2%、在庫指数は年末値で50.0、前年末比△6.4%となりました。



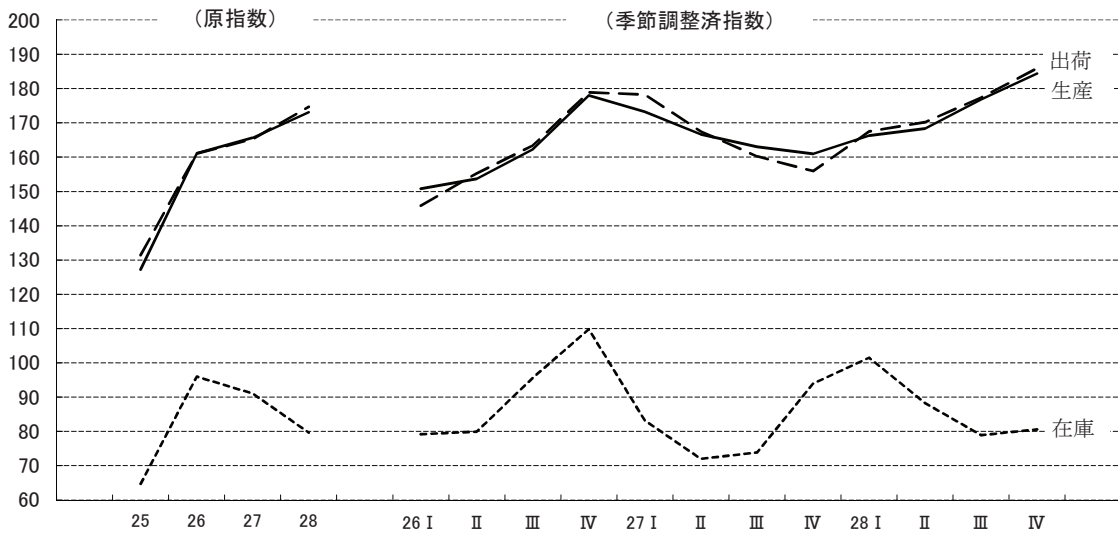
**電子部品・
デバイス工業**

平成28年の生産指数は65.3、前年比△1.1%となりました。これは、電子部品及び半導体素子が低下したことによるものです。出荷指数は66.9、同△4.2%、在庫指数は年末値で158.6、前年末比4.9%とな



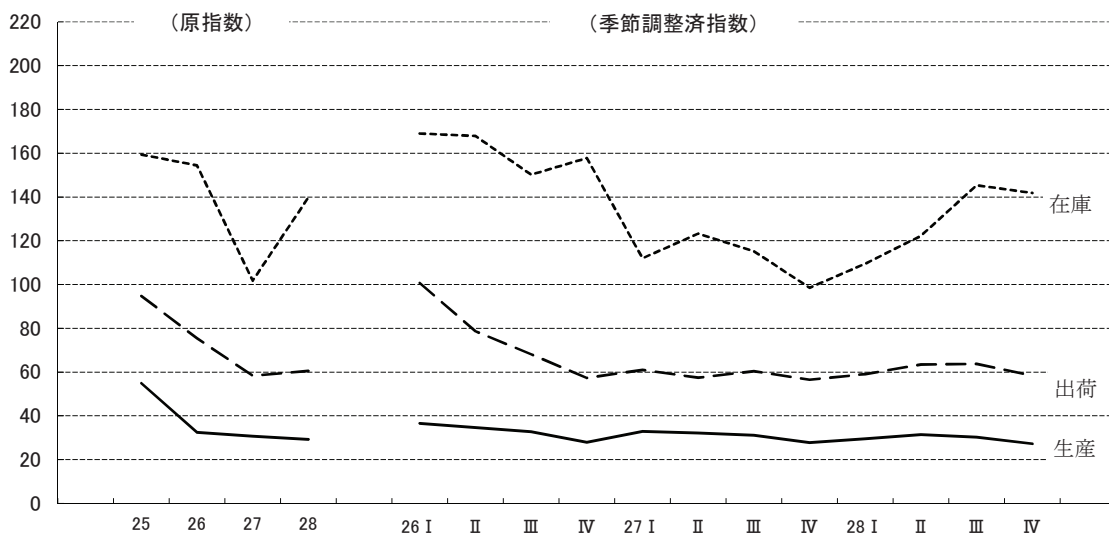
電気機械工業

平成28年の生産指数は173.1、前年比4.5%となりました。これは、主に電気計測器が上昇したことによるものです。出荷指数は174.7、同5.7%、在庫指数は年末値で79.7、前年末比△12.4%となりました。



情報通信機械工業

平成28年の生産指数は29.3、前年比△4.6%となりました。これは、電子計算機及び関連装置が低下したことによるものです。出荷指数は60.5、同3.8%、在庫指数は年末値で139.8、前年末比37.5%となりました。



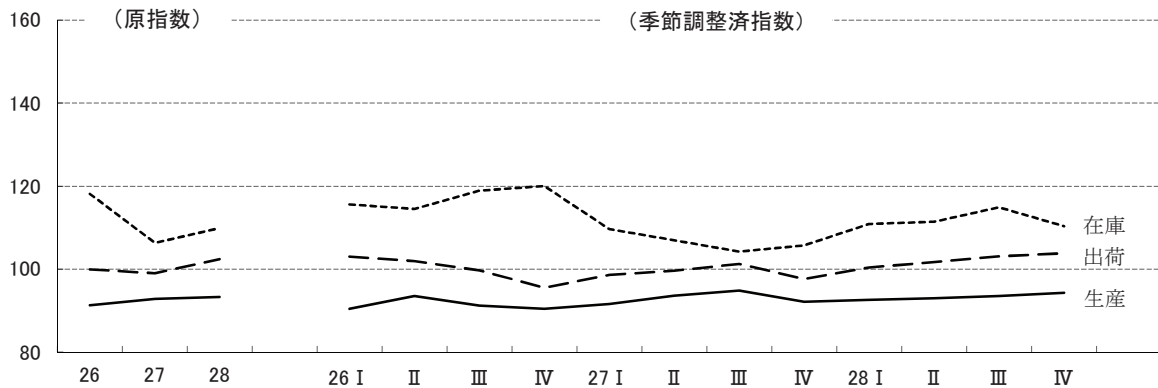
3 財別の動き

平成28年の生産指数(原指数)は、91.4、前年比1.1%となり、財別にみると資本財、生産財の上昇に大きく影響されました。最終需要財は93.3で前年比0.5%、生産財は89.5で同1.9%となりました。

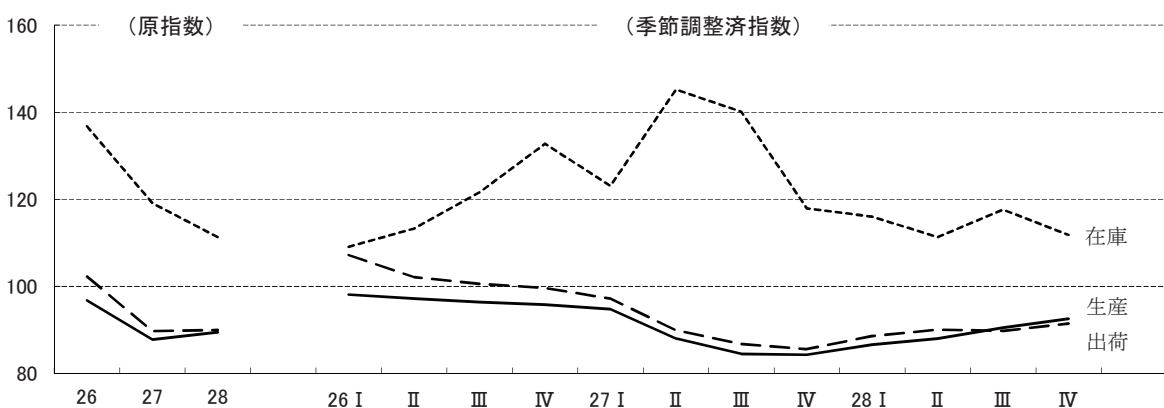
出荷指数(原指数)を財別にみると、最終需要財は102.4で前年比3.4%となりました。これは主に資本財が上昇したことによるものです。生産財は90.0で同0.3%となりました。

在庫指数(原指数)を財別にみると、最終需要財は年末値で109.9、前年末比3.4%となりました。これは、耐久消費財が上昇したことによるものです。生産財は年末値で111.3で同△6.5%となりました。

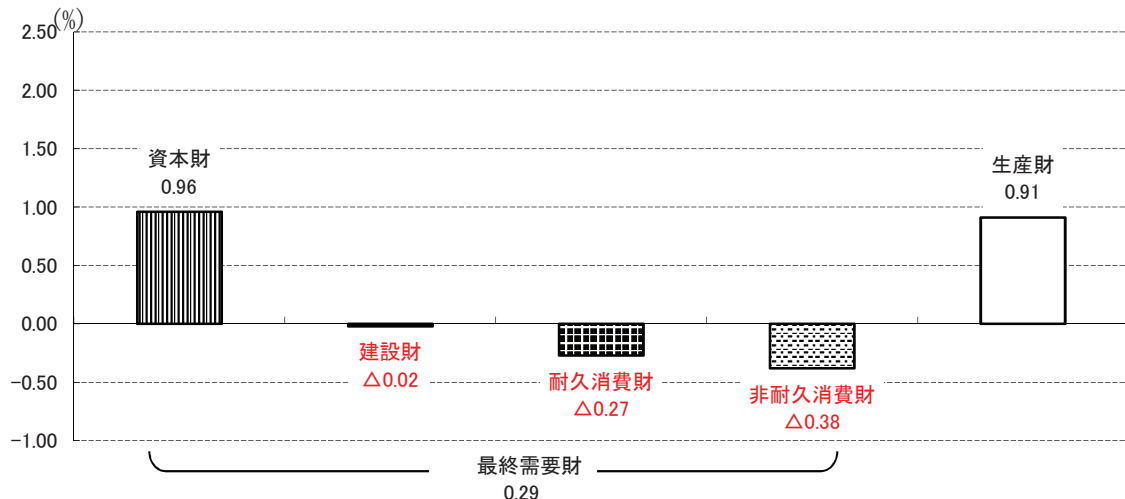
最終需要財の推移



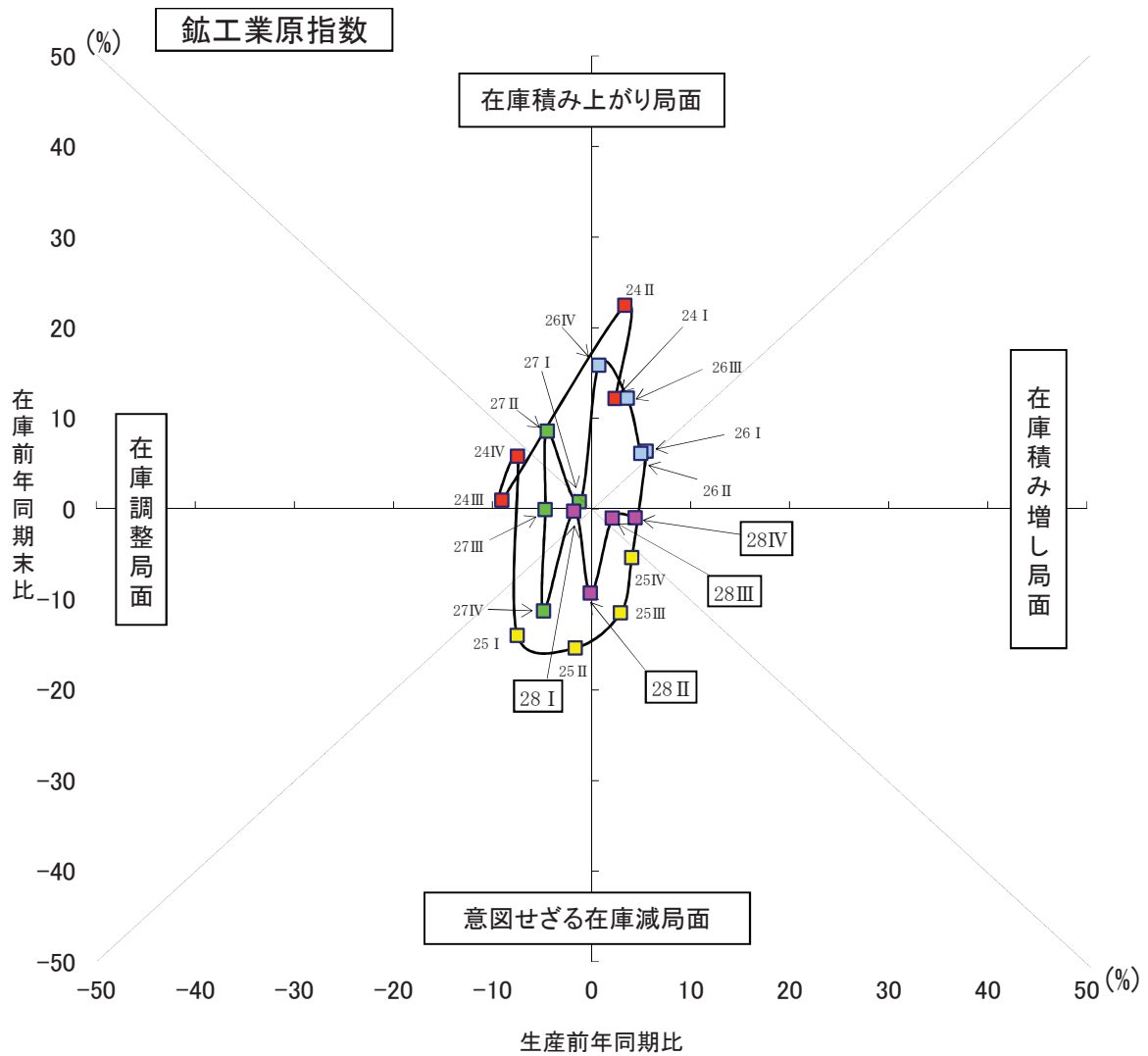
生産財の推移



生産指数(原指数)の財別寄与度(平成28年)



4 在庫循環の推移



***局面の見方**（生産と在庫について以下のような循環が見られることが多い）

- ・意図せざる在庫減局面（第一局面）・・・需要が予測を上回り、一時的に在庫が減少する。
- ・在庫積み増し局面（第二局面）・・・将来の需要増に備え増産し、在庫を積極的に積み増そうとする。
- ・在庫積み上がり局面（第三局面）・・・需要が予測を下回り、在庫が積み上がってしまう。
- ・在庫調整局面（第四局面）・・・減産を進め、積み上がった在庫を減らそうとする。

